



各病院の機能と規模の維持を
平良木哲也(日本共産党議員団)



問／上越市内の現在の救急医療体制について、少なくとも2次医療まではしっかり維持するという姿勢に立ってほしいと考えるがどうか。

答／現時点では、現状のまま維持するということを基準にしながら考えている。

問／一番の問題は医師不足だ。医師が足りないからそれに合わせるという考え方が根底にあるような県や国には、はっきりと違うと言ってほしいがどうか。

答／県は、研修医や専門研修を増やして、医師を増やす方向で進んでいるので、それを支援しながら、医師確保の努力を続けている。

物価高騰対策に力を

問／物価高騰の状況の中から市民の家計を救うために、給食費引下げのような思い切った施策の実施を検討できないか。

答／当市は、一般会計の歳入として、保護者からの給食費を入れており、材料費が上がれば、一般会計で補正していく。給食費の保護者負担を下げると一般会計の歳入が下がるが、そこへ国の交付金を充てると会計の取扱いとしてどうかということもある。

問／小手先ではなく、政策的観点で聞いている。答／所得の低い方々には、給食費は全額補助させていただいている。



よしかわ杜氏の郷の民間譲渡は地元最優先で
橋爪 法(日本共産党議員団)

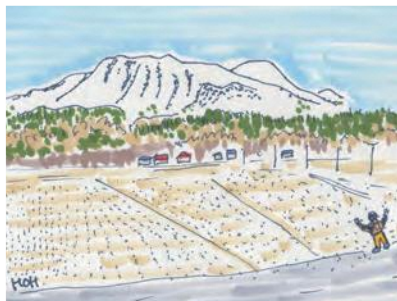


問／小田副市長は、令和3年12月の所管事務調査で、「民間譲渡に当たっては、設立した経緯を踏まえ、まずは、地元企業への譲渡の可能性を探って参りたい」と言われた。間違いないか。

答／(小田副市長) そのように発言したと記憶している。

問／ここにマンガ「夏子の酒」がある。吉川の住民はかつて、何百人も酒造りの出稼ぎに出かけた。一年の半分、父ちゃんがいなかった。吉川は、春を待つ気持ちがあるがものすごく強い町だった。春は父ちゃんが帰る季節、家族が一つになる季節だ。そういう思いをずっと抱きながら、これまでまちづくりに取り組んできた。この吉川の思いを最大限尊重して取り組んでいただきたい。

答／(中川市長) 私も「夏子の酒」を持っている。この物語を読むと、涙が出てくる。地元の皆さんの気持ちがあるところから出てくるのだからと想像しながら考えている。その辺の感情も理解しながら、立ち向かっていくことを橋爪議員にも分かっていただければ幸いだ。




人口減少社会対策に向き合わない中川市政!
宮越 馨(無所属)



問／人口減少社会の放置は、国も地方も減じる。議会が提出した人口減少対策に関する提言について、どう受け止め、実行に移すか。

答／議会からの提言内容について、私の考えと方向は一致している。

問／方向が一致しているならば具体的に何から取り組んでいくつもりか。

答／子育て関係の政策に取り組みたい。

問／具体的でない。提言に「子供年金制度」の実施が含まれている。令和3年12月議会では、制度の実施に先駆けて行うべき子供年金のニーズ調査を検討すると答弁したが、何故予算化しなかったのか。直ちに予算化すべきだ。

答／国の制度がないから実施しない。

問／国の制度がないからということとは、市は国の下請け機関なのか。良い政策なら地方から取り組むべきだ。ニーズ調査の拒否は議会軽視だ。

答／人口減少への抑止効果があるとは思わない。問／長引くコロナ禍での市内経済は冷え切っている。急激な原油高・物価高に対し、市民一人ひとりに市独自の対策として、直接現金などの値上げ緩和特例給付金を、また、小規模零細家族経営者へ1店舗当たり10万円を支給すべきではないか。

答／今後も感染状況や市内経済の状況を把握し、機を逸せずに対策を講じていく。